

# SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2011	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
6	 熊谷元一「コッペパンをかじる」 「小学1年生」より 1953年 子どもの情景-戦争と子どもたち 5月14日(土)~7月10日(日)	 ジョセフ・クーデルカ「ブラハ」1968 -この写真を一度として見るこ なかつた両親に捧げる- 5月14日(土)~7月18日(月・祝)	 世界報道写真展2011 6月11日(土)~8月7日(日)	 「ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人」 6月4日(土)~6月24日(金)
7	 子どもの情景-子どもを撮る技術 7月16日(土)~9月19日(月・祝)	 江成常夫写真展 ~昭和史のかたち~ 7月23日(土)~9月25日(日)	 鬼海弘雄写真展 東京ポートレイト 8月13日(土)~10月2日(日)	 「セヴァンの地球のなおし方」 6月25日(土)~
8				
9				
10	 子どもの情景 -原風景を求めて 9月24日(土)~12月4日(日)	 島山直哉展 Natural Stories ナチュラル・ストーリーズ 10月1日(土)~12月4日(日)	JPA展 10月8日(土)~10月23日(日)	
11			写真新世紀東京展 10月29日(土)~11月20日(日)	
12	 ジョン・トムソン「ストリート・ライフ・イン・ロンドン」より 1877-78年 ヨーロッパの ソーシャルドキュメンタリー(仮称) 12月10日(土)~1月29日(日)	 北野謙「our face」 日本の新進作家展 写真神髓-プリミティヴ・ヴィジョン(仮称) 12月10日(土)~1月29日(日)	ポートフォリオ NASA「宇宙への旅- 25年の歴史」より/1991年 映像をめぐる冒険vol.4 拡大と縮小(仮称) 12月13日(火)~1月29日(日)	上野彦馬賞 11月26日(土)~12月4日(日)
2012				
1				

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

## ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日)  
12月5日~12月9日、年末年始(12月29日~2012年1月1日)
- 開館時間：10:00~18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで  
節電対策のため、木・金の夜間開館を一時中止させていただきます。最新の開館情報はお問い合わせください。

## 割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。  
詳しくはチケット売り場でおたずねください。



## 東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099  
<http://www.syabi.com>

携帯サイトはこちら



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ11」70号 ●発行日：2011年6月10日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係  
●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団東京都写真美術館 ©2011 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

# eyes

| 2011 Vol.70 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY  
NEWS MAGAZINE

# 畠山直哉展 Natural Stories

ナチュラル・ストーリーズ

## TOPICS

東京都写真美術館では新規重点収集作家である畠山直哉の個展を開催いたします。作家の出身地である岩手県陸前高田市は、今回の東日本大震災による津波で大きく破壊されました。畠山は現在、震災後の郷里の写真も含めた構成で、展示の準備をすすめています。ここでは、展覧会カタログへの執筆を依頼するために、畠山が小説家のフィリップ・フォレスト氏に書いた1通の手紙をご紹介します。



陸前高田 2011年4月5日(表紙は部分)

## 「ナチュラル・ストーリーズ」 (P・Fへの手紙より抜粋)

畠山直哉

現在まで、僕は主に風景写真を撮ってきましたけれど、長い間の実践を通じて学んだことはいえ「上手に風景を撮る」という技術的なことではなく、むしろ僕の風景への関心というのが、写真を撮ることによって生じていたものであったということでした。この逆説に気がついている人は、実は多いはずですよ。

風景は、そこに実体として存在していたものではなく、僕たちが詩を詠んだり、写真を撮ったりすることによって初めて、僕たちの眼前に価値ある姿として現れてくるものだったのです。それが美しく心む姿であれ、冷酷でおぞましい姿であれ、目の前の自然が風景として現れるとき、自然は僕たちによって意味を付与され、価値付けをされているものだと言えます。

風景を現出させるために自然に働きかけるのは、いつも僕たち人間です。その働きかけは常に一方的であり、逆に自然が人間に働きかけ、風景を現出させるということは、決してあり得ません。なぜなら自然とはその定義上、人間の原理を超えて現象しているものことなのですから、人間のことなど一切お構いなしなのです。この自然の持つ、人間に対する無関心さは徹底しており、その冷酷な面については、例えば僕たちが人の死に出会う際に、よく実感されます。

人の死といった、あまりにも冷酷な、自然の人間に対する無関心さを思うとき、僕たちは自らの人生にも思いを馳せませす。自らが生まれ、今こうして



テリル#2607 2010

おり、やがてあの人と同じように死んでゆくだろう。その現象を肉体=自然と呼ぶなら、その自然は、人間としての僕たちに対しては沈黙を通し、何も語りません。この深い沈黙に接すると、僕たちの内には「生まれてきたこと、生きていること、死んでゆくことに理由はない」といった、やるせない感慨も生じてくるでしょう。

でも僕たちはいつも、死を恐れ、死に対して抵抗を図り、できる限り生きようとします。自分の人生に意味を与え、自分の人生の価値を高めようとします。こういった欲求のどこからどこまでが生理的、生命的なもので、どこからどこまでが人間的、文化的なものなのかを知るのには難しいですが、いずれにしろこの欲求がなければ、僕たちの生存はたちまち叶わないものとなるでしょう。

自然の人間に対する無関心さに抗うために、そして今日を生存してゆくために、自然に対して、人間の側から一方的にであっても、意味を産出し付与する行為が、

僕たちには必要になります。それを物語行為と呼んで、どこが間違っているのでしょうか？ 風景を生み出すことと同じように、自然との間に物語を生み出すことが、僕たちには必要なのです。

とは言っても、近代以降の科学的世界観の蔓延によって、自然との間に、神話や宗教のスタイルを取った物語を生み出すことには、無理が生じるようになりました。山を地質学的に理解し、月を天文学と物理学によって理解し、花の色彩や造形を昆虫との関係から理解してしまった僕たちには、大昔からの、たとえば「誰がお日様を作ったか」といったようなスタイルによる、神話的、宗教的な物語を繰り返すことは、もうできません。

神話や宗教のスタイルで物語を繰り返すことはもうできない。この認識は、近代の人間に深い寂しさと苦悩をもたらしたでしょうが、しかしその寂しさと苦悩ゆえに、近代の芸術や文学は、人類がいまだたどり着くことのなかった



シエルトンベ#4414 2007

世界の深淵にまで、どんどん降りてゆくことができたのだらうと思います。その長い歩みの総体を、あなたの国では「歴史 (histoire)」という、「物語」と同じ言葉で呼んでいますね。

果たして僕たちは、世界の底にまでたどり着いたのでしょうか？ それとも、まだまだ深いところまで、これからも降りてゆかなくてはならないのでしょうか？ それとも、すべてを諦めて、昔いた場所へと引き返すべきなのでしょうか？ いずれにしろ僕たちは、この真っ暗な世界で、言葉や写真を灯火のようにして、次の一步を踏み出さなければなりません。その一步を踏み出す行為のみが、生存を意味するということを、僕たちは誰もが心の深いところで知っているからです。

でも、次の一步をどこに踏み出せばよいのでしょうか？ 右か左か、前か後ろか。いずれにしろそれは僕たちが



ア・バード, プラスト#130 2006

決めることです。その一步を踏み出すためには、たいへんな力が必要でしょうが、その力は、僕たち一人ひとりがあらかじめ抱いている「物語」から、きっと授けられるはず。そして、僕たちがついに踏み出すとき、その一步と「自然」との出会いにおいて、別の新しい「物語＝歴史」が、そこにはきっと現れるはず。●

今回の展覧会では、岩石や鉱物を扱ったものが多く出品されるでしょうから、なんとなく自然史博物館(ナチュラル・ヒストリー・ミュージアム)の展示物を連想させるような内容になりそうな気がしています。でも、もし歴史と物語がもともと同じ言葉であるというなら「ナチュラル・ヒストリー」の「ヒストリー」は「ストーリー」でもあるわけで、いっそこの際、複数形で「ストーリーズ」と書き換えてみてはどうかと思っています。「自然についての物語」あるいは「自然な物語」といった字義通りの意味の向こうに「自然史」が連想されればと思っているのです。

沈黙する自然に対して呼びかけても、返ってくるのはこだまになった自分の声だけかもしれません。でもこのこだまを集めて、僕なりの物語として編むことが、今は必要な気がしているのです。

(2011年5月)

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

10月1日(土) → 12月4日(日)

## 島山直哉展

Natural Stories ナチュラル・ストーリーズ

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社 □ 助成：芸術文化振興基金  
□ 協賛：ニコン／ニコンイメージングジャパン／東京都写真美術館支援会 □ 協力：DNPアートコミュニケーションズ／タカインシギャラリー □ 後援：サンケイスポーツ／タ刊フジ／フジサンケイアイ／iza!／SANKEI EXPRESS

日本を代表する写真家の一人として、海外にも広く紹介されている島山直哉の個展を首都圏の美術館では初めて開催いたします。本展は近年に制作された作品を中心に、日本では未発表のシリーズ、新作も紹介いたします。

今まで島山の作品には、石灰岩や石炭といった鉱物資源に関わる工場や採掘現場、その跡地などを捉えたシリーズがあります。それらの光景は、普段あまり人が行かないような、見ることのない風景ですが、自然と人間の生活との関わりや、その場と人間との時間のやりとりを感じさせる独特の描写がされています。それらの作品には壮大で、時には畏怖を感じさせる光景が写されています。

この3月11日に島山は生まれ育った陸前高田市の、彼の記憶の中にあつたであろう風景を失いました。本誌の表紙の作品は、その後に始められた陸前高田市の風景を捉えた作品です。ホテルのエレベーターの扉に挟み込まれた松の葉や枝は津波によるものです。人間の抗うことのできない自然の力を見せつけられます。

今回は「Natural Stories ナチュラル・ストーリーズ」と題して、初期の作品から現在に至るまでの作品の中から、自然と人間との関わりを改めて俯瞰するような作品を主に構成します。これらの作品からは、美しく素晴らしい自然の魅力を感じるだけでなく、時には不条理で厳しい光景を見ることができます。長い年月をかけて自然と人間がどのように共存し、対峙してきたかを改めて考えるきっかけになるでしょう。



上)アトモス#7303 2003  
下)無題(もうひとつの山)#675009 2005

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

平成23年度東京都写真美術館コレクション展

## こどもの情景

戦争と子どもたち 5月14日(土)~7月10日(日)  
 こどもを撮る技術 7月16日(土)~9月19日(月・祝)  
 原風景を求めて 9月24日(土)~12月4日(日)

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円 (各期間の料金)

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協賛：凸版印刷株式会社 □ 協力：株式会社講談社

## こどもを撮る技術

開催期間：2011年7月16日(土)~9月19日(月・祝)

毎年ひとつのテーマに基いて、収蔵作品約2万5000点から選りすぐった珠玉の名品で構成する東京都写真美術館コレクション展。平成23年度は「こどもの情景」をテーマに3期にわたって展開します。5月にはじまった「こどもの情景—戦争と子どもたち」に続き7月16日からは、「こどもの情景—こどもを撮る技術」を開催します。

親は誰でも、こどもの今を永遠に残したいと思います。しかし、こどもは静止してはいられません。写真が登場した19世紀、世界初の写真方式であるダゲレオタイプの技術では瞬間を切り取ることができず、静止できないこどもたちの姿はぶれてしまいました。それでもこどもを撮影する努力は続けられ、写真初期の技術において、人々はこどもをいかに静止させるか考え、その姿を写真に留めたのです。また、演出写真や芸術写真にも、アノニマス(匿名的)なこどもの姿が登場します。カメラを持つことが一般的でなかった時代にも、一握りの人々が様々な角度、視点、技術でこどものイメージを発信し続けたのです。本展はいかにしてこどもを撮影するかを、多彩な作品と写真の歴史からひもとくとともに、展示室内に体験コーナーも特設。こどもを中心に、観る・撮るの両面から写真を楽しめる空間を展開します。

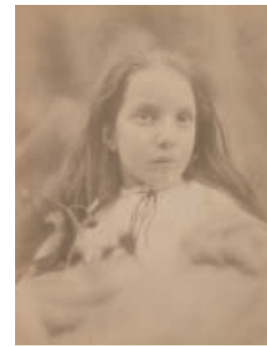
ぜひカメラを持ってご来場ください。ご家族で楽しめる展覧会です。

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~  
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。



縄跳びするマリールー ハロルド・ユージン・エジャートン 1940年  
 ダイ・トランスファー・プリント

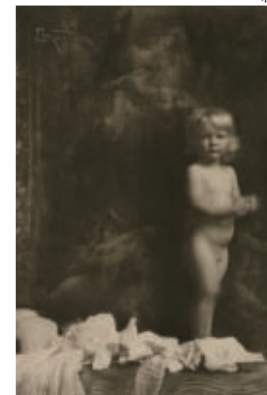
- \*1 マーガレット ジュリア・マーガレット・キャメロン 1860-70年頃 鶏卵紙
- \*2 こどものヌード <「カメラワーク」第三十一巻 1910年7月>より  
 フランク・ユージン 1910年頃 フォト・グラビア
- \*3 題不詳(家族像) 制作者不詳 1840-1859年 ダゲレオタイプ
- \*4 愛い子 黒川翠山 1906-1910年頃 セラチン・シルバー・プリント
- \*5 写真を撮るウーナ、1977年「いまだ失わざる楽園」あるいは「ウーナ3歳の年」  
 <静止した映画フィルム>より ジョナス・マクス 1977年 銀色素漂白方式印画



\*1



\*3



\*2



\*4



\*5

## 原風景を求めて

開催期間：2011年9月24日(土)~12月4日(日)

私たちは、こどもを撮った様々な写真から何を見出すのでしょうか。戦後・高度成長期の明るく元気な子どもたちが未来への希望を彷彿とさせたり、こどもの視点を連想させるイメージが懐かしい記憶をくすぐったりするように、こどもは、人間存在の原点にある世界との調和や幸福感を垣間見せてくれます。「こどもの情景—原風景を求めて」では、こどもをめぐる写真表現をたどることで現代人の心の原風景を読み解いていきます。

<楽園への歩み> W.ユージン・スミス 1946年



## 戦争と子どもたち 開催中

開催期間：2011年5月14日(土)~7月10日(日)

戦中・戦後の時代に国内外のドキュメンタリー写真家たちがこどもたちへ向けたまなざしをたどります。



<敗戦の素顔> 田村 茂 1945年頃(「戦争と子どもたち」展より)



<小麦の収穫祝、家族の肖像> 影山 光洋 1946年

# 写真のこどもに 手紙を書こう。

作品  
大募集中!



展覧会をみて写真の中の気になるこどもへメッセージを書こう!

## 課題

東京都写真美術館にて平成23年5月14日(土)から7月10日(日)まで開催する「こどもの情景—戦争とこどもたち」と7月16日(土)から9月19日(月・祝)まで開催する「こどもの情景—こどもを撮る技術」の両会期中に出品される課題作品の中から1点を選び、写真の中のこどもにメッセージを書いてください。



長倉 洋海 《生まれたばかりの赤ん坊を取り囲む  
難民の子たち》1982年

## 応募資格

### 小学生対象

※低学年の部(1年生~3年生)、高学年の部(4年生~6年生)に分けて選考を行います。

## 募集期間

2011年5月14日(土)~  
9月19日(月・祝)必着分まで

## 注意事項

### 原則400字以内

※応募作品は返却いたしませんのであらかじめご了承ください。  
※応募用紙はホームページよりダウンロードが可能です。  
応募の際にいただいた個人情報は本コンクールの目的にのみ使用させていただきます。

## 審査員

高橋源一郎(作家)、土田ヒロミ(写真家)、山本容子(銅版画家)  
NPO法人日仏子供ヴィジョンによる一次選考の後、上記審査員の方々により入賞等を決定いたします。

## 結果発表

2011年11月  
表彰式開催予定

課題作品と応募方法の詳細は下記ホームページでご確認ください。

東京都写真美術館 [www.syabi.com](http://www.syabi.com)

NPO法人日仏子供ヴィジョン [www.kodomovision.org](http://www.kodomovision.org)

## 保護者の方へ

東京都写真美術館では「こどもの情景」展に関連して、写真作品を通して芸術文化に対する理解を深め、こどもの創造性と豊かな精神を養うことを目的に「写真のこどもに手紙を書こう。」コンクールを実施しています。また、「こどもの情景」展は5月14日より7月10日までを「戦争とこどもたち」、7月16日より9月19日までを「こどもを撮る技術」、9月24日より12月4日までを「原風景を求めて」と3期にわたって、「こども」をキーワードに当館の収蔵作品のなかからご紹介するものです。歴史の中で移り変わっていくもの、時を超えて変わらないもの、写真家の個性的なまなざしや社会的背景を通して鮮やかに描き出される「こどもの情景」をご覧ください。今年の夏休みは作品を通して親子の会話を広げてみてはいかがでしょうか。

(主催:東京都写真美術館、NPO法人日仏子供ヴィジョン)

## 「こどもの情景」展 おしゃべり鑑賞タイム

コレクション展「こどもの情景」(5-6ページ掲載)では、会話をしながら作品を鑑賞できる「おしゃべり鑑賞タイム」を設けました。いつもの静かな展示室とはちがう、なごやかな雰囲気の中で、名作をめぐる会話を楽しくみください。

「戦争とこどもたち」  
会期中の  
第1・第3日曜日  
15:00~18:00

「こどもを撮る技術」  
会期中の  
毎週金曜日  
15:00~18:00

「原風景を求めて」  
会期中の  
11月12日(土)  
15:00~18:00(予定)

※最新の開館状況により、開催が変更される場合があります。ホームページ等でご確認ください。

## 最新の開館情報について

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。当館は現在の電力状況を鑑み、開館時間の調整を適宜行うとともに、館内の節電を徹底しております。最新の開館時間等につきましては、当館ホームページまたはお電話にてご確認くださいませようお願いいたします。

ホームページ <http://www.syabi.com>  
電話 03-3280-0099

※館内では照明および空調を停止している箇所がございます。また、展示室内は作品保護に適した最低限の設定を維持しております。ご理解をいただきますようお願いいたします。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

5月14日(土) → 7月18日(月・祝)

## ジョセフ・クーデルカ「プラハ1968」

—この写真を一度として見る事のなかった両親に捧げる—

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社  
□ 後援:チェコセンター/チェコ共和国大使館 □ 協力:平凡社/マグナム・フォト東京支社/エールフランス航空/ウェスティンホテル東京 □ 協賛:東京都写真美術館支援会

1968年のチェコ事件(プラハ侵攻)時に市民の攻防をとらえ、ロバート・キャパ賞を受賞した伝説の写真家、ジョセフ・クーデルカ。本展はプラハ市民の勇気ある記録をクーデルカの臨場感溢れる写真から振り返り、いかに私たちの未来の歴史の糧とするかを考えるものです。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00~  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。  
❖ 展覧会関連レクチャー 2011年6月12日(日)14:00~15:30  
ホリー・ベトル氏を迎えてプラハの街の歴史、魅力、チェコ人気質などについて幅広くお話していただきます。  
出演者:ホリー・ベトル(チェコセンター所長)  
会場:東京都写真美術館 2階ラウンジ どなたでもご参加できます。  
開場:13:45より、自由席。



占領反対を訴える新聞の配布  
Josef Koudelka, from the Aperture monograph Invasion 68: Prague, ©2008 Josef Koudelka/Magnum Photos

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

6月11日(土) → 8月7日(日)

## 世界報道写真展2011

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:朝日新聞社/世界報道写真財団 □ 共催:東京都写真美術館 □ 後援:オランダ王国大使館/公益社団法人日本写真協会/公益社団法人日本写真家協会 □ 協賛:キャンマークetingジャパン株式会社/ティエヌティエクスプレス株式会社

世界各国で活躍する約5700人の報道写真家から、10万8000点を超える応募作品が寄せられた世界報道写真コンテスト2011。本展はスポーツや社会問題など9部門で入賞した56人の作品を展示するとともに、3月に起きた東日本大震災の記録の一部をスライドショーによって上映します。

### ❖ 展覧会関連イベント

7/16(土)~18(月・祝)  
1Fアトリエ  
第4回 写実フォトコミュニティーワークショップ(主催 東京都写真美術館/朝日新聞社)  
事前申込制、有料(詳細はwww.syabi.com)、フォトジャーナリズム、フォトコミュニティーの現場を学べる3日間のプログラム  
□ 講師:Qサカマキ(写真家、アメリカ在住)、外山俊樹(AERAフォトエディター)

7/22(金)  
1Fアトリエ  
小中学生を対象とした報道カメラマン1日体験  
□ 定員:15人 □ 参加費:1,500円 □ 申し込み方法:往復はがきによる事前申込(送付先)〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2朝日新聞社文化事業部「1日報道カメラマン」まで。締め切り7月13日 問い合わせ:03-5540-7450



「日常生活」の部 組写真1位  
マルティン・ルーメルス  
オランダ、パノス・ビクチャーズ  
トロポリス

◎お問い合わせ>>朝日新聞社企画事業本部文化事業部 03-5540-7450



2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

7月23日(日) → 9月25日(日)

## 江成常夫写真展 ～ 昭和史のかたち～

Enari Tsuneo Exhibition Japan and Its Forgotten War: Showa

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社 □ 協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フィルム株式会社／株式会社東京アド／株式会社トーション／光村印刷株式会社 □ 協力：株式会社写真弘社／株式会社フレームマン／株式会社カシマ

太平洋戦争開戦から70年、その発端ともいえる満州事変の勃発からは80年という節目にあたる2011年、当館では、日本を代表する写真家であり、40年近くにわたって昭和の戦争とその負の遺産を写真で表現しつづけてきた江成常夫の集大成「昭和史のかたち」を開催します。1936年に神奈川県に生まれ、毎日新聞

東京本社の写真記者を経て、1974年よりフリーランスの写真家として活動する江成は、太平洋戦争に翻弄された国内外の人々や遺産を克明に記録し続けることで、日本人の現代史に対する精神性を問い続けてきました。本展では、その代表作と未発表作の計112点を5部構成で出展し、現代日本を生きる私たちの歴史

そのものを概観します。

第1部「鬼哭の島」では、フィリピンのレイテ島やサイパン、硫黄島、沖縄など、惨劇の島で向かい合った声なき人々とその情景を描出。第2部「偽満洲国」では、おびたしい数の人たちに血と涙を強いながら消滅した旧満洲国の各地を巡り、日中両国民の落差と事実を描写。第3部「シャオハイの満洲」では、その旧満洲に置き去りにされた戦争孤児たちと対峙し、昭和という人間性不在の光景を露わにします。そして、第4部「ヒロシマ」、第5部「ナガサキ」では、未発表最新作を含む作品の数々を通じて、癒えることのない被爆者の痛みと、繰り返してはならない人間の罪業を追求。現代日本を生きる私たちにその歴史を顧みさせ、語り継ぐべき真実を訴えかけます。

※ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00～  
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

※ 本展覧会は下記に巡回します。

□ 2012年1月27日(金)～2月13日(月) 相模原市民ギャラリー  
 □ 2012年3月18日(日)～4月22日(日) 酒田市美術館

1	2	4	6	9
	3	5	7	8

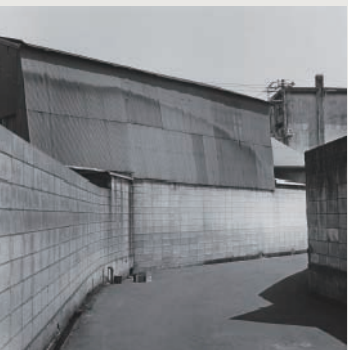
1. 南洋の花ハイビスカス／ペリリュー島、パラオ 2004年10月
2. 海中に墜落したままの日本軍のゼロ戦 コロール島、パラオ 2004年10月
3. 米軍が上陸したボスネックの海岸／ビアク島 2007年7月
4. 広島への原爆搭載記念碑／テニアン島、北マリアナ諸島 2004年12月
5. 身元不明水兵の墓石／オアフ島、ハワイ 2005年5月
6. 久保浦 寛人(当時19歳)／2009年5月
7. 焼け焦げた帽子／広島原爆資料館所蔵、西迫哲夫氏寄贈 2010年4月
8. 米軍戦闘機・グラマンコルセアの残骸 ガダルカナル島、ソロモン諸島 2007年1月
9. ベノゴル砲台／テニアン島、北マリアナ諸島 2004年12月

※ 連続対談／江成常夫と語る「昭和史のかたち」

各回14:00～15:30

- 7月30日(土) 森村泰昌(美術家) ……会場／1階アトリエ 定員／70名
- 8月20日(土) 梶久美子(ノンフィクション作家) 会場／2階ラウンジ 定員／50名
- 8月27日(土) 澤地久枝(作家) ……会場／1階アトリエ 定員／70名

対象: 展覧会チケットをお持ちの方  
 受付: 当日10:00より当館1階受付にて整理番号つき入場券を配布します。  
 開場: 13:30～、整理番号順入場、自由席



	4
1	5
	6
	7
2	3
	8

- 1.「皮装束の男 1985」
- 2.「豊島区池袋 1989」
- 3.「世田谷区瀬田 1985」
- 4.「ヴィンテージカメラを持ったカップル 1973」
- 5.「たくさんの衣装を持つ人 2001」
- 6.「大工の棟梁 1985」
- 7.「遠くから歩いてきたという青年 1999」
- 8.「『高そうなカメラだね』と言う男 1986」

B1F

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引  
 地下1階展示室 Exhibition Gallery | 8月13日(金) → 10月2日(日)

## 鬼海弘雄写真展 東京ポートレート ～ Tokyo Portraits ～

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円  
 ( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、  
 上記カード会員割引料金  
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：クレヴィス  
 □ 協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / 富士フイルム株式会社

写真にしか表現できない「ちから」がある…写真があまりにも身近すぎる存在になってしまった現在、霧散してしまったこの直接的な問いかけに真っ向から取り組み、新たな写真表現の地平を探求し続けている写真家、それが鬼海弘雄です。『鬼海弘雄写真展 東京ポートレート』は、30年以上にわたって浅草の人々を撮り続けた肖像や、都市を独自の視点で写し出したシリーズにより、近年、国際的にも大きな注目を浴びている鬼海の初めての大規模な回顧展となります。

1945年山形県に生まれた鬼海は、映画青年として学生時代を送った大学で哲学を修めた後、トラック運転手、マグロ漁船の乗組員などさまざまな職業を転々とする中、ダイアン・アーバスの作品との出会いが大きな転機をもたらします。アーバスの作品に大きな衝撃を受けた彼は1969年に写真をはじめ、写真家として身を立てる決意をします。以来、現在まで写真表現をひたすら追求することに身を投じてきました。本展は、強烈な存在感と詩情をあわせもつ人々を40年以上にわたって撮り続けている『PERSONA』、人の営みの匂いを写し出す町のポートレート『東京迷路』『東京夢譚』ライフワークであるこの2本のシリーズから精選したモノクロ作品約200点を一堂に展示、写真家・鬼海弘雄の世界を展覧します。

写真家としての矜持<sup>きょうじ</sup>を頑固なまでに崩さず、人間という摩訶不思議な生き物に対する尽きない好奇心と愛情が注ぎ込まれた作品群は、圧倒的な力を持って見るものに写真表現の可能性を訴えかけます。熱狂的なファンも多い作家最大の展覧会となる本展は、まさに待ち望まれた展覧会と言えるものです。

※会期中、鬼海弘雄氏によるギャラリー・トークが開催されます。  
 ※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

◎お問い合わせ≫ クレヴィス 03-5784-2466

Film 『ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人』

夫婦共通の楽しみは現代アートのコレクション。コツコツと買い集めた作品はいつしか20世紀のアート史に残る作家の名作ばかりに!

郵便局員のハーブと、図書館司書のドロシーの楽しみは現代アートの収集。慎ましい生活の中で約30年をかけてコツコツと作品を買い集めてきたふたりに、アメリカ国立美術館から寄贈の依頼が……。実在する現代アートコレクター、ヴォーゲル夫妻を追った感動のドキュメンタリー作品。



「ハーブ&ドロシー」  
© 2008 Fine Line Media, Inc. All Rights Reserved.

m's company  
03-6272-5396

○上映スケジュール: 2011年6月4日(土)~6月24日(金)  
月曜休映(祝日の場合は翌日休映)  
○上映時間: 11:00 / 13:00 / 15:00

○料 金: [当日券] 一般1,800円 / 学生1,500円 / シニア(60歳以上)1,000円  
※詳細はホームページをご確認ください。

Film 『セヴァンの地球のなおい方』

日本とフランスで子どもたちの未来を救うために「食」を守り続ける人びとを追ったドキュメンタリー

1992年の環境サミットで、未来の子どもたちのために責任ある行動を呼びかけた少女セヴァン。本作は29歳になった彼女の島での生活、自然と共生する日本の農村、原発問題を抱えるフランスの村などを取材し、セヴァンと同じまなざしで地球の未来を見つめる人々の姿を追う。



アップリンク  
03-6821-6821

○上映スケジュール: 2011年6月25日(土)~  
月曜休映(祝日の場合は翌日休映)  
○上映時間: 未定

○料 金: [当日券] 未定  
※詳細はホームページをご確認ください。

カフェ 『シャンブル クレール』

営業時間 10:00-20:00  
最新の営業時間はホームページ等でご確認ください。  
◎お問い合わせ: Tel.03-5798-2218

希少な豆であるコナを100%使用しています。備長炭で焙煎した、かぐわしい香りとコクをお楽しみください。  
【おすすめの珈琲】  
ハワイ コナ 700円(税込)



ミュージアムショップ 『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00  
最新の営業時間はホームページ等でご確認ください。  
◎お問い合わせ: Tel.03-3280-3279

新しい写美オリジナルグッズです。書き込みもできるポケットノートで、チケットや写真を入れるなど、工夫次第で楽しく使えます。  
南国カンガルーノート 各525円(税込)



友の会 Support

展示会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費 個人会員 2,000円  
家族会員(同伴者1名まで) 3,000円  
シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。  
※会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。  
※詳細は当美術館までお問い合わせください。 Tel.03-3280-0099(開館時間中)

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
企画展・誘致展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
その他	※ニュース「eyes」送付 ※1階ホールの割引(上映作品により異なります) ※観覧ポイントをためて特典と交換 ※ロコ渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など(一部商品は除きます。) ※WINE MARKET PARTY恵比寿店でご購入金額から5%割引(一部商品は除きます、他の優待サービスとの併用不可)

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- |   |  |   |   |  |
|---|--|---|---|--|
| <p>— 特別賛助会員 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キヤノン(株)</li> <li>(株)資生堂</li> <li>(株)ニコン</li> </ul> <p>— 特別支援会員 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(株)キタムラ</li> <li>キヤンマーケティングジャパン(株)</li> <li>大日本印刷(株)</li> <li>東京電力(株)</li> <li>凸版印刷(株)</li> <li>富士フイルム(株)</li> <li>(株)リコー</li> </ul> <p>支援会員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(株)&amp;S BBDO</li> <li>(株)アイデム</li> <li>(株)葵プロモーション</li> <li>(株)アサツグ ディー・ケー</li> <li>旭化成(株)</li> <li>朝日新聞社</li> <li>(株)朝日新聞出版</li> <li>朝日生命保険相互会社</li> <li>アサヒビール(株)</li> <li>朝日放送(株)</li> <li>(株)アシェット婦人画報社</li> <li>アスクル(株)</li> <li>(株)アートよみうり</li> <li>(株)アマナホールディングス</li> <li>(株)岩波書店</li> <li>(株)潮出版社</li> <li>内田写真(株)</li> <li>(株)エース企画</li> <li>(株)ADKアーツ</li> <li>NECディスプレイソリューションズ(株)</li> <li>(株)NHKアート</li> <li>NHK営業サービス(株)</li> <li>(株)NHKエデュケーショナル</li> <li>(株)NHKエンタープライズ</li> <li>(株)NHKグローバルメディアサービス</li> <li>(株)NHK出版</li> <li>(株)NHKビジネスクリエイト</li> <li>(株)NHKプロモーション</li> <li>(株)NHKメディアテクノロジー</li> <li>(株)NTTデータ</li> <li>(株)NTTドコモ</li> <li>NTT都市開発(株)</li> <li>(株)エフエム東京</li> <li>エプソン販売(株)</li> <li>エルメス財団</li> <li>(株)大塚商会</li> <li>オリックス(株)</li> <li>オリパスマイメージング(株)</li> <li>(株)オンワードホールディングス</li> <li>科研製薬(株)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>カシオ計算機(株)</li> <li>鹿島建設(株)</li> <li>(株)角川グループホールディングス</li> <li>カトーレック(株)</li> <li>神奈川新聞社</li> <li>カルビス(株)</li> <li>(株)キクチ科学研究所</li> <li>キッコーマン(株)</li> <li>(株)紀伊國屋書店</li> <li>キハラ(株)</li> <li>ギャラリー小柳</li> <li>キューコムコミュニケーションズ</li> <li>共同印刷(株)</li> <li>一般社団法人共同通信社</li> <li>協和発酵キリン(株)</li> <li>(株)弘亜社</li> <li>(株)講談社</li> <li>(株)光文社</li> <li>(株)国書刊行会</li> <li>(株)コスモスインターナショナル</li> <li>(株)コーセー</li> <li>コダック(株)</li> <li>(株)ザ・アール</li> <li>サッポロホールディングス(株)</li> <li>三機工業(株)</li> <li>産経新聞社</li> <li>サントリーホールディングス(株)</li> <li>(株)サンライズ</li> <li>(株)サンローズィ</li> <li>(株)ジェイアール東日本企画</li> <li>JXホールディングス(株)</li> <li>ジェイティービー印刷(株)</li> <li>(株)シグマ</li> <li>(株)実業之日本社</li> <li>信濃毎日新聞社</li> <li>清水建設(株)</li> <li>(株)写真弘社</li> <li>写真の学校/東京写真学園チャンネル(株)</li> <li>(株)集英社</li> <li>(株)主婦と生活社</li> <li>(株)主婦の友社</li> <li>(株)小学館</li> <li>松竹(株)</li> <li>信越化学工業(株)</li> <li>(株)新潮社</li> <li>(株)スタジオアリス</li> <li>(株)スタジオエムジー</li> <li>(株)スタジオジブリ</li> <li>住友化学(株)</li> <li>(株)生活の友社</li> <li>セイコーホールディングス(株)</li> <li>(株)青春出版社</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>積水ハウス(株)</li> <li>(株)セーフティ</li> <li>セントラル警備保障(株)</li> <li>全日本空輸(株)</li> <li>ソニー(株)</li> <li>第一生命保険(株)</li> <li>第一法規(株)</li> <li>ダイキン工業(株)</li> <li>(株)ダイケングループ</li> <li>大成建設(株)</li> <li>(有)タカ・イシイギャラリー</li> <li>高砂熱学工業(株)</li> <li>(株)宝島社</li> <li>(株)竹中工務店</li> <li>(株)タムロン</li> <li>(株)淡交社</li> <li>(株)丹青社</li> <li>(株)中央公論新社</li> <li>中外製薬(株)</li> <li>(株)ティーツーピーオー</li> <li>(株)TBSテレビ</li> <li>(株)テー・オー・ダブリュー</li> <li>(株)テレビ朝日</li> <li>(株)テレビ東京</li> <li>電源開発(株)</li> <li>(株)電通</li> <li>(株)電通テック</li> <li>東亜建設工業(株)</li> <li>東急建設(株)</li> <li>東京ガス(株)</li> <li>東京急行電鉄(株)</li> <li>東京工芸大学</li> <li>東京新聞・中日新聞社</li> <li>(株)東京スタデオ</li> <li>東京造形大学</li> <li>東京総合写真専門学校</li> <li>東京テアトル(株)</li> <li>東京都競馬(株)</li> <li>(株)東京ドーム</li> <li>(株)東京ニュース通信社</li> <li>(株)東京美術倶楽部</li> <li>(学)専門学校東京ビジュアルアーツ</li> <li>東京外ロボリタンテレビジョン(株)</li> <li>(株)東芝</li> <li>東宝(株)</li> <li>(株)東北新社</li> <li>(株)東洋経済新報社</li> <li>東洋熱工業(株)</li> <li>(株)徳間書店</li> <li>図書印刷(株)</li> <li>戸田建設(株)</li> <li>トヨタ自動車(株)</li> <li>(株)ニコンイメージングジャパン</li> <li>日外アソシエーツ(株)</li> <li>日油(株)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日活(株)</li> <li>(株)日経BP</li> <li>日産自動車(株)</li> <li>(株)日本カメラ社</li> <li>日本空港ビルデング(株)</li> <li>日本経済新聞社</li> <li>日本興亜損害保険(株)</li> <li>(株)日本広告社</li> <li>(社)日本広告写真家協会</li> <li>日本写真印刷(株)</li> <li>(社)日本写真家協会</li> <li>公益社団法人日本写真協会</li> <li>日本写真芸術専門学校</li> <li>一般社団法人日本写真家協会</li> <li>(社)日本写真文化協会</li> <li>日本大学芸術学部</li> <li>日本たばこ産業(株)</li> <li>日本テレビ放送網(株)</li> <li>日本ビューレット・バックカード(株)</li> <li>(株)ニッポン放送</li> <li>日本ロレックス(株)</li> <li>(株)ニューアートディフュージョン</li> <li>(株)博報堂</li> <li>(株)バス・コミュニケーションズ</li> <li>パナソニック(株)</li> <li>(株)パラゴン</li> <li>ぴあ(株)</li> <li>ビービーメディア(株)</li> <li>北海道 写真の町東川町</li> <li>東日本旅客鉄道(株)</li> <li>光写真印刷(株)</li> <li>(株)美術出版社</li> <li>(株)日立製作所</li> <li>(株)ビデオプロモーション</li> <li>ヒノキ新薬(株)</li> <li>(株)ピラミッドフィルム</li> <li>(株)ファーストリテイリング</li> <li>富国生命保険相互会社</li> <li>富士重工業(株)(スバル)</li> <li>富士ゼロックス(株)</li> <li>(株)フジテレビジョン</li> <li>富士電機システムズ(株)</li> <li>(株)扶桑社</li> <li>(株)双葉社</li> <li>(株)東洋経済新報社</li> <li>(株)ブリヂストン</li> <li>(株)プリンスホテル</li> <li>(株)フレームマン</li> <li>(株)文化工房</li> <li>(株)文藝春秋</li> <li>(株)ベネッセホールディングス</li> <li>ベルボン(株)</li> <li>北海道新聞社</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(株)ホテルオークラ</li> <li>HOYA(株) PENTAX</li> <li>イメージング・システム事業部</li> <li>(株)堀内カラー</li> <li>本田技研工業(株)</li> <li>毎日新聞社</li> <li>(株)マガジンハウス</li> <li>マヤ・デジタル・イメージング(株)</li> <li>九善(株)</li> <li>(株)マンダム</li> <li>三井倉庫(株)</li> <li>三井不動産(株)</li> <li>(株)三越</li> <li>三菱地所(株)</li> <li>三菱製紙(株)</li> <li>三菱倉庫(株)</li> <li>三菱UFJ信託銀行(株)</li> <li>武蔵大学</li> <li>明治安田生命保険相互会社</li> <li>森ビル(株)</li> <li>モルガン・スタンレーMUFJ</li> <li>証券(株)</li> <li>(株)ヤナセ</li> <li>ヤマロジスティクス(株)</li> <li>ユサコ(株)</li> <li>USACO CORPORATION</li> <li>ユニリーバ・ジャパン</li> <li>横河電機(株)</li> <li>(株)吉野工業所</li> <li>東日本旅客鉄道(株)</li> <li>読売新聞社</li> <li>ライオン(株)</li> <li>ライカカメラジャパン(株)</li> <li>リシモンジャパン(株) モンブラン</li> <li>レンゴー(株)</li> <li>(株)ロボット</li> <li>(株)ワコール</li> </ul> |
|---|--|---|---|--|

(株)=株式会社、(有)=有限会社、(社)=社団法人、(学)=学校法人

(平成23年5月現在・五十音順)